

四国ブロック内雇用情勢報告(平成28年7～9月四半期分)

	平成28年7-9月期							
	就業地別有効求人倍率	受地理別有効求人倍率	新規求人増減率	新規求職増減率	正社員有効求人倍率	雇用保険被保険者数増減率	雇用保険受給者実人員増減率	雇用情勢判断
	【季調値】 (対前期差)	【季調値】 (対前期差)	※季調値で見た対前期比	※季調値で見た対前期比	【原数値】 (対前年同期差)	※原数値で見た対前年同期比	※原数値で見た対前年同期比	
(単位:倍、ポイント)	(単位:倍、ポイント)	(単位:%)	(単位:%)	(単位:倍、ポイント)	(単位:%)	(単位:%)		
四国ブロック	1.46 (0.01)	1.41 (0.01)	▲0.2	2.5	0.88 (0.13)	1.1	▲7.5	現在の雇用情勢は、引き続き改善している
徳島県	1.46 (0.02)	1.35 (0.02)	0.2	4.1	0.86 (0.07)	1.3	▲5.7	—
香川県	1.69 (0.00)	1.66 (0.03)	3.6	2.5	1.16 (0.21)	1.0	▲9.0	—
愛媛県	1.50 (▲0.01)	1.42 (▲0.02)	▲1.1	1.3	0.89 (0.13)	1.3	▲7.0	—
高知県	1.11 (0.04)	1.13 (0.01)	▲5.1	3.2	0.58 (0.10)	0.6	▲8.4	—

※ 雇用保険被保険者数については、一般、高年齢、特例被保険者の合計値。雇用保険受給者実人員については、一般被保険者の数値である。

雇用動向におけるトピック

- 四国ブロックの平成28年7～9月四半期の有効求人倍率は、前期から0.01ポイント改善し、1.41倍となった。これは、平成3年4～6月期、平成28年4～6月期の1.40倍を超えて、過去最高となっている。また、平成25年7～9月期の1.01倍以降、13期連続で1倍台となっている。
- ブロック管内では、大型複合量販店、スーパーマーケットなど複数の新規出店があり、接客、販売、調理などの需要が高まっており、当該管轄のハローワークでは「仕事説明会」や「採用選考会」などを開催し、求人の充足を図っている。

企業の生の声

【人手不足・人材の確保に関すること】

- 郡部のコンビニエンスストアでは人材確保ができず、24時間営業の中止や閉店の事例もみられた。(小売業)
- 正社員(有資格者)を雇用したいが応募者がいないので、パート就労者も合わせて募集している。(医療・福祉)
- 今後10年ほどの受注が見込まれており、昨年から15年ぶりに新規採用を再開し、後継者の育成を行っている。また、都市部の建設会社が都市部では人材確保が難しいことから、地方の新卒者を確保しようとする動きが見られ、ますます今後の地方における人材不足が懸念される。(建設業)
- 募集に際して県内同業種の求人賃金を調べたところ、時給850円位だったので、これより高い900円で募集したところ、多くの応募があり人材を確保できた。(製造業)
- 外国客船入港により、客数増加に効果があった。雇用については、臨時雇用で対応。(小売業、飲食店)
- ガソリンスタンドの求人は、男性の職場とみられがちだが、当該企業では女性が数名活躍中である。女性スタッフが常駐するガソリンスタンドとして知名度が上がっており、女性お一人での来店、また、お子様連れの来店客も多い。今後も、女性を積極的に採用したい。(小売業)
- 生産者の高齢化と、後継者不足により、生産地としての存続に不安を感じている。大学の研究者の支援を受けて養液栽培を取り入れる等、従来の「休みのない重労働」というイメージから「科学的な生産調整による自分のライフスタイルに合わせた生産が可能な農業」への転換を図り、後継者の育成と、新規就農者の獲得に取り組んでいる。(農業)

マザーズハローワーク・マザーズコーナー 担当窓口の声

- 就職に結びつきやすい求職者
 - ・希望する職種での経験者は、スキルや資格を所持していることから、年齢にかかわらず就職に結びつきやすい。
 - ・未経験職種であっても、ビジネスマナーや適切な受け答えができるなど、就職意欲が高い方は就職に結びついている。
 - ・希望職種や条件が明確で、その優先度合が明確な方。自己理解や仕事理解が十分であり、応募先の選択が適切にできている方。希望条件に柔軟性のある方。応募書類・面接に向けて事前に準備をしている方。
- 就職に結びつきにくい求職者
 - ・自己理解が不足しており、希望職種が漠然としている求職者。
 - ・希望条件に柔軟性が少ない方や、自己理解・仕事理解に取り組めていない方など。
- 求職者が求職活動において重視している要素
 - ・職務内容よりも、勤務時間(子供の送迎の時間が取れるかどうか、残業の有無)、休日(土日祝休み)、扶養の範囲内での収入、勤務地(子供の送迎における利便性)などの勤務条件、雇用環境を優先している。
 - ・急な休みに対応してくれるなど、事業所に対し、子育てへの理解の要望が強い。
- 最近の求職者の特徴的な動き
 - ・毎年11月頃から翌年4月入所の保育所申込みが始まるため、この時期から就労を希望する求職者が多くなってくる。
 - ・子供が病気の時に預けられるところを増やして欲しい、保育時間を延長して欲しいといった相談が多く、新設保育所の情報や、地域における病児保育、学童保育についての情報提供を行なっている。